

令和 6 年度教職課程の自己点検・評価結果

新潟大学教育基盤機構全学教職センター

(1) 教育理念・学修目標

教員養成の理念及び目的は、各学部・研究科で構成員の共通理解を得て定められ、各学部・研究科は「卒業認定・学位授与方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」を策定・公開し、学生の学修成果や、社会情勢の変化に応じて適宜見直しを実施し、これらの情報は大学ホームページで公開している。

(2) 授業科目・教育課程の編成実施

法令や教員養成の目標に基づき、体系的・段階的に編成され、必要な授業科目が精選されている。各科目には到達目標が設定され、シラバスに明記されている。学修時間の確保や履修状況の管理、自己点検・評価による見直しも適切に実施されている。

また、各学部・研究科では教育課程やコアカリキュラムとの整合性を図りつつ、教育内容や方法の充実に努めている。現状では大きな問題点は認められていない。

(3) 学修成果の把握・可視化

成績評価基準と各授業科目の到達目標との関係を明確に示し、シラバスや学生便覧等で共有している。評価方法や配点も明示され、公平性の確保に努めている。複数教員が担当する科目でも成績分布は概ね平準化されており、各部局においてシラバスの確認や成績の点検を実施している。全体として、学修成果の把握と評価の適正化が図られており、現時点で大きな問題は認められていない。

(4) 教職員組織

教職課程に必要な専任教員数を満たしており、教員の業績や担当職員の配置も適切であるが、教職課程認定基準で定められた必要専任教員数が不足することがないよう、準備する必要がある。

部局によっては、FD の実施が課題とされ、全学 FD 等の取り組みが必要になる。

(5) 情報公表

学位プログラム評価報告書や、教育実習参加者数、教員免許取得者数などを通じて、学修成果に関する情報を積極的に公表している。これらの情報は、大学公式ホームペ

ージに掲載され、教育の透明性と質の保証に資する内容となっている。教育実践学研究科では、年報や修了生調査も行い、教育成果の検証と改善に努めている。学修成果の公表体制は整備されており、継続的な情報公開が実施されている。

(6) 教職指導（学生の受け入れ・学生支援）

入学時ガイダンスや初年次授業、講演会、懇談会を通じて教職課程の周知を行い、履修・進路指導も適切に実施している。ゼミや授業を活用した個別指導、教職指導担当教員や委員会による支援体制が整備されており、学生のキャリア支援にも力を入れている。教職関連情報の提供や面談を通じて、教職志望学生へのきめ細かなサポートを実現しており、現状大きな課題は見られていない。

(7) 関係機関等との連携

新潟県教育委員会連携推進協議会及び新潟市教育委員会教育懇談会を実施し、学校体験活動や学習指導員としての活動や新潟市学習支援ボランティア、学校支援フィールドワーク等を実施している。

【評価結果のまとめ】

「新潟大学における教職課程の内部質保証及び自己点検・評価実施要項」に基づく点検・評価の結果、評価項目（4）「教職員組織」を除き、適切に実施されており、「改善の必要なし」との評価である。

なお、評価項目（4）「教職員組織」の「教員の配置の状況」及び「FD・SDの実施状況」については、「改善検討の必要あり」との意見があり、特に、後任人事の採用など、教職課程認定基準で定められた必要専任教員数が不足することがないように、準備する必要がある。